

三池集治監跡

1883 年、官営三池炭鉱での労役を課せられた受刑者収容に、日本政府は三池集治監を設立した。日本初のこの種の刑務所は、収容人数最大 2,000 人であったが、1897 年のピーク時には 2,166 人の男性が収容されていた。収容者の大半は長期の重罪犯であり、炭鉱での経験はなかった。1931 年に、三池集治監は閉鎖された。

集治監が閉鎖された後、三井グループがその土地を購入し、技術学校の敷地として使用することになった。刑務所の建物は、その場所の暗い過去を想起させるものとして取り壊された。

現在残っているのは、学校の運動場の片側にある、600 メートルのレンガと石造りの塀だけである。この塀は福岡県の有形文化財に指定されている。1953 年には福岡県立三池工業高等学校となった。

1990 年代に新校舎を建設中、集治監の建物の基礎の一部が発見された。その後の発掘調査と考古学的研究により、レンガ造りの基礎、便所、さまざまな遺物、そして囚人が穴を掘って脱獄するのを防ぐために壁の下に垂直に埋め込まれた一連の石板が発見された。